

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト				法人番号	6100005002075			
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副					
構成施設	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積877㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室								
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。								
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。								
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること								

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト			指定回数	3 回	
指定期間	平成29年4月1日	～	令和4年3月31日	5年	管理運営開始日	平成18年4月1日
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)					

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年比	評価
	利用者数	人	47,719	46,814	37,867	17,017	45%	
	(内 出張広場参加者)	人	906	1,295	1,266	347	27%	
	新規登録幼児数	人	2,304	2,127	1,765	498	28%	
	専門家相談人数	人	552	481	663	323	49%	
	子育てコンシェルジュ相談数	件	—	—	908	2,999	330%	
	ホームスタート訪問家庭数	人	63	67	60	58	97%	
							#DIV/0!	
(特記事項) 【令和2年度】 ・こども広場は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、市からの要請により、4月1日から5月31日まで休館し、再開後も感染対策を講じ、予約制により年齢別で人数、利用時間等を制限して開館していることから利用者数が減少した。								
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	① 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ② 子育てに関する相談 ④ 子育てに関する情報の提供 ⑥ 子育て情報誌の発行 ⑧ ホームスタート事業 ⑩ その他子育て支援に関すること		③ 子育てグループ等の育成、 ⑤ あそびに関する指導及び助言 ⑦ 子育て講座、イベントの開催 ⑨ 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)				
	自主事業	・講座の開催 ① プレママプレパパのためのペアレンティングセミナー ② 離乳食講習会 ③ パパ講座 ・地域と連携した広場の開催 ① あそびましよう(東部保健センター 月2回) ② ゆりかごの会 ③ 子育てサロンびーかーバー ③ サンサン広場(いずれも権堂イーストプラザ) ・スタッフ研修		・こども広場 ・4月～5月 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため休館 ・「ながの子ども・子育てフェスティバル」(こども政策課協働事業)参加 ・長野市保健所との協働事業「休日マタニティセミナー」が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～6月の間は中止となったため、再開までの間、「マタニティフォローアップセミナー」を開催し、初めて妊娠した夫婦を支援した。 ・令和元年東日本台風災害被災者支援の継続：休眠預金を活用し、子どもの居場所・リフレッシュプログラム・パパママサロン等を行い、保護者や子どもを支援				
サービス維持・向上の取組み(広報等)	休館中もFacebookやブログといったSNSを用いて、「あそび」の助言等を情報発信し、育児支援を行った。 月間スケジュール、ホームページで毎日の広場の様子やお知らせを掲載し、利用促進を図った。 週刊長野に「子どもも親も生き生きと」を寄稿と子育て支援の情報を月1回提供 広場から遠い親子や多胎児を育てる子育て世帯からの要望に応じて、出張広場を実施							

4

3 利用者評価

利用者評価	区分	内容		評価
	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート	
利用者からの評価・苦情等	(2) 調査、会議等の内容	・「じゃん・けん・ぼん」利用者アンケート:3月に実施(109人に配布、回収率100%) ・ホームスタート事業利用者アンケート:利用の前後にアンケート調査し、充足度を調査(調査対象家庭数42家庭) ・講座等アンケート:各講座終了時にアンケート調査、更に一人ひとりから感想や要望等の聞き取り(ねんねの会、年齢別おしゃべり会、ウェルカム交流会、子育て講座など) ・施設内に「利用者の声コーナー(投書箱)」設置し、利用者の声を把握するようにした。		
	(3) 調査、会議等の結果	【こども広場】 ・利用者からの投書には、一人ひとりに返答するようにしている。 ・利用者アンケートの対応等については、こども広場情報誌「じゃん・けん・ぼん」に掲載した。 【ホームスタート・講座等】 ・運営の参考や講座のニーズの参考として利用		
利用者からの評価・苦情等	(1) 良好とする評価	【こども広場】 ・「スタッフが声をかけてくれる」、「ちょっとした会話の中で相談できるのが良い」など、利用者アンケート結果の98%がスタッフの対応に満足と回答 ・「広いところで自由に遊べる」、「安全・安心して遊ばせることができる」、「おもちゃの種類も良い」など施設についても評価された。 ・利用者アンケート結果では、92%の利用者が2回以上利用しているリピーターである。 【ホームスタート】 ・利用した42家庭の90%以上が満足と回答		
	(2) 苦情・改善等の要望事項	【こども広場】 ・「コロナで、おもちゃの数を制限しているのはわかるが、もう少しあるとうれしい」 ・「利用時間が、もう少し長いとうれしい」 ・「様々な講座等がコロナで中止となっているので、親子で参加できる講座をやってほしい」		
「対応措置」		・新型コロナウイルス感染症の予防対策として、利用時間を年齢別に3区分とし、対象年齢に合わせたおもちゃを配置しているため、全てのおもちゃを使用できていないが、利用人数に合わせ、満足してもらえるように数量や種類を増やして提供した。 ・こども広場の開館や利用方法については、市内の新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、所管課と協議し変更している。問い合わせには、丁寧に説明し、理解を得るように努める。 ・講座等についても、感染状況やよりニーズの高いものを常に調査し、感染症対策ができるものについて開催していく。		

4

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和2年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和2年度決算		令和元年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料	23,974,000	指定管理料	23,974,000	雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料		委託料	458,480	行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等		販売収入等		貸付料		貸付料		
	その他収入	178,000	その他収入	153,695	その他		その他		
			広告料収入	37,390	国・県補助金	10,855,000	国・県補助金	10,473,000	
	計	24,152,000	計	24,623,565	計	10,855,000	計	10,473,000	
支出	人件費	16,936,000	人件費	18,386,687	指定管理料	23,974,000	指定管理料	23,782,000	歳出
	設備管理費	135,000	設備管理費	45,330	委託料		委託料		
	備品購入費	600,000	備品購入費	258,383	需用費		需用費		
	修繕費	103,000	修繕費	276,650	役務費		役務費	9,720	
	光熱水費		光熱水費		使用料・賃借料	4,128	使用料・賃借料	365,116	
	事業費	2,909,000	事業費	2,328,792	修繕費		修繕費		
	事務経費	1,286,000	事務経費	1,921,384	工事請負費		工事請負費		
	本社経費		本社経費		備品購入費	297,000	備品購入費		
	その他	2,183,000	その他	1,108,400	その他		その他		
	計	24,152,000	計	24,325,626	計	24,275,128	計	24,156,836	
自主事業	収入		収入						
	支出		支出						
	自主事業損益	0	自主事業損益	0					
損益		0		297,939	差引	-13,420,128		-13,683,836	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和2年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								75.6%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※すべて で、「3」、「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか 配置実績(うち市内雇用職員数) 運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ4人(4)、スタッフ11人(10)、コンサルタント1人(1) 合計 19人(18人)	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか		
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか		
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか		
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか		
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護 1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☑		
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☑		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価			
<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。</p>	4			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座) ・地域のシニア層との交流(折り紙教室、シニア大学への情報提供) ・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校) ・地元商店街からの物品購入等に努めた。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「花回廊」や「権堂七夕まつり」など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 </td> </tr> </tbody> </table>		協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座) ・地域のシニア層との交流(折り紙教室、シニア大学への情報提供) ・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校) ・地元商店街からの物品購入等に努めた。
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座) ・地域のシニア層との交流(折り紙教室、シニア大学への情報提供) ・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校) ・地元商店街からの物品購入等に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「花回廊」や「権堂七夕まつり」など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 			

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>--- 基準値</p>
施設の有効活用	4	16	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	4	8	
合計得点			

評価理由
<ul style="list-style-type: none"> ・「指定管理者の健全性」については、子育て支援施設の設置目的や運営方針を踏まえた上で、地域や他の機関等と連携した運営が行われていることから、評価を「4」とした。 ・「施設の有効活用」については、新型コロナウイルス感染症の対応により、こども広場が2か月間休館となったが、休館中もSNSを活用した積極的な情報発信を行い、子育て世帯の支援に努めたことから評価を「4」とした。 ・「利用者評価」については、利用者からのアンケート結果での評価も高い上、苦情に対しては、真摯に受けとめ対応していることから「4」とした。 ・「管理運営全般」については、専門性を備えた職員の配置をして、施設運営が円滑に実施されていることから「4」とした。 ・「地域連携」については、新型コロナウイルス感染症対策の影響により地域の団体との連携は減少したが、中止となった市の事業に参加を強く要望していた子育て世帯を支援するため、急速、自主事業として同様のセミナーを開催したり、地元大学との連携する事業をオンラインにして開催するなど工夫し、地域連携のために活動をしていることから評価を「4」とした。

取組み・改善案等(施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	<ul style="list-style-type: none"> ・こども広場における子育て相談や子育てコンシェルジュ、訪問型子育て支援など各相談窓口が連携し、利用者が利用しやすい施設運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休館中も電話やオンラインにより相談業務を継続するとともに、飛び込みで相談にきた相談者に対しても臨機応変に対応した。 ・子育てコンシェルジュと関係機関との連携はできた。 	

次年度の目標・取組み等(施設所管課)
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境を整備、充実し、新型コロナウイルス感染症の感染が広がった時でも相談できる体制づくりを進める。 ・地域の新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、利用者が安心・安全して利用できる施設運営を期待する。

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

コロナ禍での対応…

- ・常に衛生管理に気を配り、来館者が安心安全に利用できるよう細心の注意を払った。1日3クールで終了毎に館内やおもちゃの消毒及び交換して実施
- ・臨時休業中、自宅で自粛している親子向けに毎日Facebookで動画を配信。(手遊びや体遊び、パネルシアターなど配信。リーチ数2か月間で17,255件)
- ・訪問型子育て支援事業は、広場休業中においても要望のあった22家庭に38回訪問し支援。その後も例年以上の申込があり訪問数は年間58家庭382回
- ・中止となった健康教室、休日マタニティセミナーについて、自主事業として開催又は支援をした。
休日マタニティセミナー…独自にフォローアップセミナーを開催。希望家族(19組38人)に助産師が個別対応
健康教室等への対応…不安を抱えた利用者に小児科医、栄養士、保育士等が個別支援と共に育児講座、離乳食講座を人数や時間、開催回数の工夫をし支援した。
- ・利用者支援事業の充実…外出自粛等により子育てに関する不安が多く見受けられ、休館中にも電話による相談や、飛び込みで相談に来た親子に随時対応するなど臨機応変に相談に対応した。また、ケースによっては子育て支援課、保健センター、マイサポ等と連携し、より一層利用者の利便性が図れるようにした。
相談総件数5,018件、うちコンシェル対応件数2,999件と約60%に上る。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・常勤スタッフが少なく、パート職員が多く意思疎通が難しい場面がある。更にコロナ感染防止のため、全体のミーティングもなかなか開催できなかったため、チーフ会議を定期的実施し、パート職員にも確実に情報が届くようにした。また、一斉メールを利用して情報共有のスピード化を図った。
- ・来館者への紙ベースの情報提供を極力削減した。チラシをA5判にし、配布。小さく持ち帰りしやすいと好評。さらにWEBでの情報発信も積極的に行い、月間スケジュールにQRコードを付けるなど利用者がアクセスしやすいように工夫した。
- ・「先生おしえて」等専門家による講座の講師を法人関係者に依頼し実施。また、子育て講座にはスタッフの資格、「わらべうたベビーマッサージ」指導者5名、JPIC読書アドバイザー2名、絵本セラピスト2名、公認コアキッズ体操普及員4名、NP認定ファシリテーター6名を活用し、謝金等経費の削減に努めた。また、講座はボランティアと連携し年間438人の協力があつた。
- ・内部的な印刷物には裏紙を使う、文房具品等を安価な業者より購入する等、また手作り遊具を作成する際も空き箱やあまり布などを利用し、日常的に経費削減を意識している。

③ その他

- ・こども広場の持つ特性を活用：「休日マタニティセミナー」「多胎児育児相談事業」等長野市との協働事業、「長野市転入者子育て交流会事業」等を受託し、広場利用者のみならず妊産婦家族、長野市転入者、多胎児の家族等地域住民への支援ができ、より有効な事業とすることが出来た。
- ・教育機関と連携： コロナ対策を講じて、可能な限り実習やインターンシップの場を提供し、参加者の社会参加の促進や研究成果を広場運営に活用した。
長野県立大学・長野県短期大学金山ゼミ「オンライン 初めてママとねんねちゃんのおしゃべりカフェ」を共催。4回7人参加
長野看護専門学校 臨地実習 母性看護実習生36人(各1日) 各日終了後スタッフ助産師とカンファレンス
長野清泉女学院短期大学 塚原ゼミ 絵本の読み聞かせ・手遊び等
長野清泉女学院大学看護学部との協働実施「プレママ・プレパパのためのペアレンティングセミナー」3回 9組
- ・妊娠期から途切れない支援を目指して： 休日マタニティセミナー(長野市保健所との協働事業)、プレネイタルミーティング(講師：小児科医)、プレママ・プレパパのためのペアレンティングセミナー、ホームスタート産前産後支援、ねんねの会へと、子どもの月齢等に合わせた事業展開した。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

・新型コロナ禍での対応…

- ・1年を通して、感染症対策が課題であった。国、県、市の対応を逐次情報収集し、また所管課と協議し適切に対応することができた。今後もこのような災害などが起こった場合を想定し、スタッフの行動マニュアルや危機管理マニュアル等に添った、スタッフ対応のシミュレーション等が課題である。
- ・開館について、感染状況と照らし合わせ、利用人数や利用時間について所管課と協議しながら、親子が利用しやすいような対応をする。
- ・利用制限しているため、広場の利用者の減少に繋がっていると思われる。0～1歳までの広場利用が多い中、親子に寄り添える支援の在り方を検討する。
- ・外出自粛により孤立して子育てに悩んだり、外に出て来れないケースが散見される。訪問型子育て支援「ホームスタート」やWEBを活用した支援からリアルな支援へ等、一人ひとりの状況に合った支援をしていきたい。
- ・利用者支援事業が軌道に乗り始め、成果が出ている。さらに周知を図り、訪問型子育て支援事業と共に、より多くの市内の子育て世帯が利用できるように広報をしたい。
- ・スタッフ配置…利用者のニーズに添ったサービスの提供や、施設の安全性を高め、安心して来館できるようスタッフを配置しているが、勤務時間等によりスタッフの確保に苦慮している。

(3) 総合評価

評価基準

- 【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
- 【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止による休業中も子育て中の親子への支援等、緊急時に速やかに支援の提供ができた。
- ・居住年数3年未満の20～30歳代の若いアウェイ育児の核家族が、地縁血縁の無い所で子育てをしていて、広場の気になっている活動として40%の人は相談をあげ、92%の人はりピーターとして利用するなど、子育て家族の拠り所となっている。
- ・一場所多機能の活用…拠点型こども広場事業、ホームスタート事業、利用者支援事業、併設されている長野市ファミリー・サポート・センター事業等一場所に多機能を有し、それらを活用した支援を長野市子育て支援課、保健所、中央児童相談所等専門機関や主任児童委員協議会等地域連携の中で行い、子育て中の市民からの問い合わせも多く、地域の子育て支援の中核となり喜ばれている。
- ・専門性を生かした支援…保健センター等で健診・講座が中止され不安を抱えた保護者に、看護師・助産師・栄養士等によりスピーディに適切な支援ができた。
- ・利用者参加の子育て支援…地域の子育て中の父親を実行委員として「ながのわくわくパパ講座」4回開催。主体的にZoomによる講座、公園での講座等で、コロナ禍での父親の役割や普段の悩み事などをお互いに共有。父親の子育て参加の支援ができ、また他のパパサークルとの連携もできたことで、令和3年度の「ながのこども・子育てフェスティバル」の企画参加につながった。

② 次年度以降の取組み

- ・利用者支援事業・ホームスタート事業の充実
次年度は新任のコンシェルジュ、オーガナイザーを各1名配置予定。それぞれ2名体制とし、よりきめ細やかな相談を目指す。担当者の資質向上を図り、より利用者の声にこたえられる人材づくりを行う。また、地域との連携の利点も生かし、地域資源の開発を図る。
- ・求められる広場づくり
コロナ禍においても、困った時や何かあった時などいつでも相談できる広場としての役割を再確認し、選ばれる広場となるために常に利用者のニーズ把握することや新規利用者を増やすための施設運営に努める。
- ・パートナーとともに子育てを
地域の中で、子育てを手伝ってくれる身近な人がいない家庭が増えてきている。また、コロナ禍でうち時間が長くなっている現状もあり、父親の役割が重要視されてきている。「ながのわくわくパパ講座」や「ペアレンティングセミナー」等の充実を図り、パートナーとともに子育てを楽しめるよう支援する。